



扉【とびら】

宇部市立藤山中学校
8 月 号
2020. 8. 25 発行

プロジェクトF～挑戦者たち～

校長 海 頭 巖

これまで経験したことのない夏。自粛の名の下に活動が制限され何となく重い心持ちで過ごした最も短かった夏休みを終え、明るく元気で心豊かな学校生活が戻ってきました。本当に有り難いことです。

『有り難う』の反対語は『当たり前』。甲子園交流試合の開会式ということもあってか、八田英二高野連会長のあいさつが心に染みました。「これまでの周りの方の心配りや手助けは当たり前ではなく『奇跡』とも言えるべきもの。感謝の気持ちを当たり前ではなかったという言葉に込めるのです。私たちは決してひとりでは生きていけません。これからも感謝の気持ちを忘れずに甲子園球児という誇りを胸に長い人生行路を歩んでください」と。この挨拶を聞いていて、『有り難うの反対語は当たり前』は「今更ではなく、今だからこそ尚更」と改めて心の奥まで深く染み込んできましたし、忘れかけていた『「ありがとう」と言い続けることで見えてくるものがある。当たり前で淡々と普通に生きられることが『奇跡』であるということ』という言葉の思い起こさせてくれました。

さて、8月21日(金)6校時、3年学年集会で修学旅行中止を伝えました。断腸の思いでしたが、『生徒の命と健康第一、コロナ感染拡大防止』を念頭に置けば、致し方ないことです。しかも、県内での泊を伴う旅行も中止ということも告げました。生徒の中には首をうなだれて聞いていた生徒、まなじりをややつり上げてこちらを見ている生徒、うなずきながら聞いている生徒などさまざまな反応でした。3年生にとっては最高の思い出づくりができるチャンスの一つを奪われたことによる喪失感にさいなまれたことと思います。申し訳ないと心から思っています。しかし、その時に「修学旅行に代わる思い出づくりの行事を生徒と先生が一緒になって考え、創ってほしい」と申し添えました。

二学期の始業式、『挑戦と創造の二学期を！』ということで放送で挨拶をさせてもらいました。「挑戦とは、勇気をもって未知の世界へ飛び込むこと。そこには必ず不安や恐れが生じます。それは挑戦してもうまくいくかどうか分からないからです。また挑戦し続けるには続けられるものでないといけません。続けていくには好きなことでないと続けられません。そこで好きなことは何なのかを見つけ出すことが大事になってきます、見つけられないと自分の才能にも気づけないからです。希望を見出し、臆せず、怯まず、諦めず、知恵とユーモアをもって、創造に向けて、自分自身のいろいろな可能性に力の限り挑み続けましょう」といった内容です。

知恵＝（直感力＋知識＋経験）× 考える力。 知恵＋ユーモア＝創造。

私は上のような数式を考えています。あながち間違っていないのでは…。

修学旅行に代わる思い出づくりの行事、熱中症対策とコロナ対策で期日変更となった10月24日(土)の文化祭と10月25日(日)の体育祭。これらの大きな行事を『ウィズコロナ・コロナとの共存』の中でさえも乗り越えていける藤山中。かつてのNHKの看板番組になぞらえた藤山中版『プロジェクトX』ならぬ『プロジェクトF～挑戦者たち～』がいよいよ動き始めた。